

## 道徳の時間 学習指導案

指導者 海田町立海田小学校

- 1 日時 平成30年1月24日(水)
- 2 学年 第3学年2組(男子19名 女子14名 計33名)
- 3 主題名 「本当の友達」 内容項目 2-(3) 友情, 信頼  
【特別の教科 道徳編 B-(9) 友情, 信頼】  
教材名: 「なかよしだから」(一部改正)

### 4 題材について

#### (1) 教材観

本主題は、学習指導要領第3学年及び第4学年の指導内容2-(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」をもとに設定した。友達は家族以外で特に深いかかわりをもつ存在であり、友情関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。自我に目覚め、自分と他人を意識し、自分との違いや似ていることに気付くことができる中学年のこの時期に、信頼や友情について深く考えることは、高学年に向かう児童にとって、非常に大切な時間であると考えられる。

本教材は、「宿題を忘れたから答えを教えてほしい。」と言われた実が、どうするか悩むという物語である。相手の実くんの立場に立ち、「答えを教える」か「答えを教えない」を考える活動を通して、友達だからこそ、どうすればいいのかを考える実くんの気持ちに気づき、本当の友達とはどんな存在なのか、友達を信頼するとはどういうことなのかについて考えるのに適した資料である。

#### (2) 児童観

本学級の児童は、友達を大切に、学級生活や休み時間において、困っている友達がいたら積極的に手伝い、助け合おうとしている。また、「友達は大切だと思いますか。」というアンケートへの肯定的回答が100%であり、友達が大切だという意識は高い。しかし、学級生活の中で自分の利害関係でトラブルになる場面も見られることがある。また、「どういう人を友達だと思いますか。」という設問では、ほとんどの児童が「遊んでくれる人」や「自分に優しくしてくれる人」と回答しており、互いに理解しあったり、信頼し合うという段階には至っていない。

「卓球は四人まで」で友情について学習した際には、どうすれば五人で楽しく遊べるか等の、納得解に向け学級全体で話し合い、生活の中でも全員が楽しく幸せになれるような行動選択が増えてきた。

#### (3) 指導観

指導に当たっては、「本当の友達」について多面的に考えられるようにしていく。そのために、以下の点を工夫する。第一に、導入では、友達に注意されたことを生活経験の中から想起し、注意された時の気持ちを考えることで、主人公であるぼくの心情の理解を促す補助にする。第二に、資料前半の場面絵やキーワードを黒板に提示することで状況把握を行い、それらを基にして、実くんが迷う場面について自分なりの解決方法とその理由を考える場を設定する。第三に、「答えを教えるべき」と「答えを教えないべき」の各立場の理由を出し合うと

ともに、答えを教えた、教えなかったときの気持ちがすっきりしたか、すっきりしなかったかで細分化し、各意見を対比・類比する。また、それぞれの理由を比べることにより、どちらにも友達を思う気持ちがあることに気付けるようにするとともに、ぼくがどのように考えるかを引き出すようにする。これまでの三つの工夫の中で、自分以外の意見にも相手を思いやる感情があることを知ることで、相手のためになる行動について深く考えることができる。第四に、展開後段では、役割演技を行い、実際に断るまたは教える言葉を考える活動を通して、自分が考えた解決策を身近な問題としていくとともに、価値の深化を図るようにする。

この学習を通して、児童自身が日常的に仲良しと感じている友達のことを信頼し、注意し合ったり、違う意見を言ったりすることのできる友情を築いていこうとする判断力を育てたい。

#### 5 本時において育成したい資質・能力

育成したい資質・能力	本時の学習を通して目指す姿
主体性	相手意識や目的意識をもって、最後まで学習に取り組む。

#### 6 本時の学習

##### (1) 本時の目標

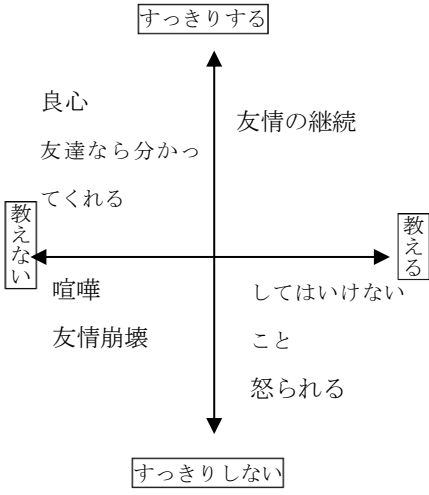
宿題の答えを教えるか、教えないか葛藤する実の立場になって考え、意見を交流することを通して、友達と互いに理解し、信頼し、助け合える関係の在り方について考えることのできる道徳的な判断力を育てる。

##### (2) 準備物

挿絵

##### (3) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (○) 教科の指導事項 (★) 資質・能力 (評価方法)
導入	1 友達に注意されたことがあるか考える。 「今までに友達に注意されたことがありますか。また、そのときどのような気持ちになりましたか。」	◇注意された時の気持ちまで聞くことで、後でぼくの気持ちについてふれる時に考えやすいようにする。	

<p>展開</p>	<p>2 資料の範読を聞く。 「宿題を忘れていたことは、どんな気持ちだったでしょうか。」 「カーブを教えてもらった時の実君はどんな気持ちだったでしょうか。」</p> <p>3 教えるか、教えないか、すっきりするか、すっきりしないかで、考える。 「みんなが実君ならどうしますか。」</p>	<p>◇P. 39 の 11 行目までを範読し、自分で判断できるようにする。</p> <p>◇内容を理解するための発問を行い、全員が状況を把握して考えることができるようにする。</p> 	
<p>展開</p>	<p>4 自分の意見を決定し、話し合う。 「ぼくにどのように断りますか。その言葉でぼくは納得するでしょうか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「協働」の場面での児童の言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えないけどすっきりしません。なぜなら教えなかったことで喧嘩になって、友達ではなくなるかもしれないからです。</li> <li>・教えないし、すっきりします。なぜなら、教えないことはその友達のためだからです。</li> <li>・教えてすっきりします。宿題を教えて先生に怒られても、友情の方が大切だからです。</li> <li>・教えるけどすっきりしません。なぜなら、友達だから教えてあげるけど、本当はしてはいけないことだからです。</li> </ul> </div>	<p>◇生活の経験を基に発表させる。</p> <p>◇「教えない」の意見が多くなるのが予想されるので、どのように断るかを考えさせる。</p>	<p>★相手意識や目的意識をもって、最後まで話し合いに取り組む。(発表・観察)</p> <p>○本当の友達や友情について話し合うことで、自分の考えを深めることができます。(発表・ノート)</p>
	<p>5 役割演技を行う。 「納得したペアはいまですか。」</p>	<p>◇ペアで断り方の交流をした後、断られても納得できるという児童の役割演技を全体で見、自分なりの納得解を考える。</p>	

終末	6 振り返りを書く。	◇友達の意見で良かったところに視点を 含め振り返りをさせる。 ◇考えが変わったり，深まった児童を指 名し，振り返りを聞く。	
	<p>★めざす児童の姿</p> <p>A：初めは，友達だから教えてあげた方がよいと思ったけれど，〇〇さんの考えを聞き，友達だからその人のために教えないという考えもあるのだと思いました。友達のことを本当に考えて行動できるようになりたいです。</p> <p>B：友達が困っていたら助けてあげたいと思うけど，本当に友達のことを考えて助けてあげたいなと思います。</p>		

(4) 板書計画

どう断るか

- ・後でよかったと思うよ。
- ・そのほうが実くんのためだから。
- ・答えは実くんのためにならないから教えないけど、やり方は教えられるよ。

スッキリする

友達が大切  
友達が好き

後でよかったと  
思う

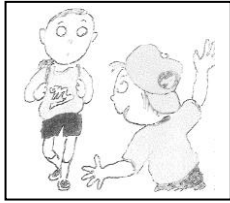
友達が大切  
本当はしては  
いけない

分かってくれる  
教えない

よいこと  
友達でなくなる

スッキリしない

教える



なかよしだから

ぼくと  
実くんに